

2026
同友しづおか 2

VOL.567

同友しづおか

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」
「企業も地域もよくなつた！」



静岡県中小企業家同友会

同友会で経営者が変わる、社員が変わる、会社が変わること。



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけ合い、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1

よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2

よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これから経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3

よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり

- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

その答え、 同友会にありました。

会員募集中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆企業づくり◆

私たちは、関わる全ての人が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆地域づくり◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆同友会づくり◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1085 名

所属支部	氏名	社名・事業	紹介者	所属支部	氏名	社名・事業	紹介者
伊東	堀口 岳士	大同工業(株) 建設業（住宅、別荘、ホテル、公共施設等の建築一式工事）	野村 勝也	静岡	中里 曜	平金産業(株) 製造業（魚粉、DHAオイル、肥料の製造販売）	渡邊 且真
沼津	鈴木 大河	フリースタイルデザインズ(株) 機械設計・製造（産業用ロボットを使用した自動化設備の構想設計から据付までサポート、自動機・専用機の設計から製作）	石澤 浩一	静岡	橋本 隆生	(株)吉村 印刷製造業（日本茶のパッケージおよび商品の企画・製造・販売）	松葉 秀介
沼津	向笠 公晴	フリースタイルデザインズ(株) 機械設計・製造（産業用ロボットを使用した自動化設備の構想設計から据付までサポート、自動機・専用機の設計から製作）	石澤 浩一	榛南	阿南 孝仁	阿南重工業(株) 管工事業、とび・土木工事業（浜岡原子力発電所の配管工事の新設、設計施工、補修工事、機器メンテナンス、足場の組立・解体）	高橋 章仁
沼津	我妻 知世	(株)こことサービス サービス業（ハウスクリーニング、エアコンクリーニング、お困り事の解決）	望月 大樹	中遠	内田 貴久	(株)ファイブペイ 経営コンサルタント	江間 省豪
富士宮	滝田 一馬	(株)Soooy ITサービス（ローコードツール・生成AIツールを活用した業務改善支援）	渡邊 且真	浜松	鶴田 優磨	(同)Various Future 24ジムの運営、野球少年のレッスン（コレジム（浜松13店舗、岩手県盛岡市1店舗））	小林 久城
静岡	中川 直子	トレードパートナーズ(株) 不動産業（売買・賃貸の仲介）	石川 英章				

※新会員の写真は e.doyu 「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyu からのご確認をお願い致します。



二つと無い会社づくりの中で 「新芽」から生まれた健康食品 発芽そば発酵エキスのサプリメント

(株)不二工芸製作所(富士宮支部)

當務取締役 前島 靖勲氏



初代社屋

しかし時代の変化とともに下駄の需要は減少。そうした中、1978年からはカシオの計算機や腕時計製造受託という「将来性を見据えた弱電業界」に移し、以来20年以上にわたる主要事業となりました。

その後、バブル崩壊や円高により、輸出が主力のカシオは海外移転を本格化。これを機に、

富士宮の地で、健康食品の受託製造および自社製品の製造販売を中心に行なう株式会社不二工芸製作所。社名の「不二」は、「二つとない」「唯一無二」を意味する言葉です。同社の歩みは、前島靖勲氏の祖父が終戦直後の1946年に創業した下駄製造から始まりました。

二度の事業転換

再度業種転換する大英断をした
結果、2000年過ぎに現業種

にシフトしました。また、1996年頃に進出したアグリ事業では、各種野菜やスプラウト野菜の栽培を開始。当初取り組んだ水耕栽培は、0157問題による風評被害で断念しましたが、その逆風を契機に後述する「スプラウト野菜による高機能性食品素材開発」に着手できました。さらに2001年には製薬会社との契約をきっかけに健康食品の小分け包装事業へと二度目の事業転換を図り、現在主要事業として同社の売上・利益を支える屋台骨の事業に成長しました。2013年には研究棟を建設、2020年頃には工場も増設、やしています。

『逸品誕生』の思いがけない契機

並行して自社製品の研究を進める中、「逸品誕生」の契機は思いがけない偶然から訪れました。そばの芽研究の過程で抽出したエキスを保管していた冷蔵庫が故障し、その中に発酵が進んだ試料が見つかったのです。この変化に目を留めたのが父であり現代表の前島正容社長でした。「普通なら廃棄していたかもしれない試料」を可能性として掘り下げたことが発芽そば発酵エキスの研究開発に繋がり、2006年について製造特許を

健康の芽を日本にとどまらず世界に
前島常務が入社したのは2006年。工業系大学を卒業後、製品研究のために農業分野を学び直し、静岡大学で農学博士号を取得しました。父とともに商品研究開発の推進役として業務に携わる中、2020年頃にまさかの工場長が急逝。十分なノウハウの引き継ぎも叶わないまま工場長を担うことになり、「正直、最初はうまくいかず辛い日々でした」と当時を振り返ります。

確立することができました。さらに2009年には、にんにくのスプラウトの栽培特許を取得。そばのスプラウトやにんにくのスプラウトを使ったサプリメントは、現在では同社の二大自社製品として、多くの健康愛好家に支持されています。



製造の上うす

それでも現場に立ち続け、社員と向き合い続けた経験が、現在の信頼につながっていると言います。

富士宮青年会議所理事長、東海地区合同研修「とうかい号」局長を歴任し、視野とネットワークを広げた前島常務。現在は同友会で経営理念を策定中で、「健康」を経営と働く人の共通軸に据える予定だそうです。健康の芽を日本にとどまらず世界にまで届けるため、アジア他海外展開も強化している真っ最中だと語ります。変化を厭わず、偶然を見逃さず、覚悟で育てる。その積み重ねが「二つとない」「不二」の価値、逸品を生み出しています。

取材・記事：田邊元裕氏
(株)力ボス・富士宮支部

(株)不二工芸製作所

〒418-0078 富士宮市阿幸地町333

TEI : 0544-23-0411

URL : <https://sohanome.co.in/>

設立 1946年

社員数 110名

入会年月 2016年4月

事業內容 健康食品製造業

幸場をつくる。蝶番をつくり続けて80余年、すべてのつながりを大切に

(有)伊藤金属総業
代表取締役 伊藤 徹郎氏（伊東支部）



会社前にて伊藤氏



工場内のようにす

三代目として 経営の舵取りを引き継ぐ

(有)伊藤金属総業は、昭和20年（1945年）、伊藤氏の祖父により創業されました。戦後間もない時代に金属加工業として歩みを始め、地域の人々に支えられながら事業を続けてきました。「金属加工なら何でもできる会社にしようと」いう思いが社名に込められています。幼少期から工場で働く家族の姿を見て育ったため、家業を継ぐことは、ごく自然な流れだったとのことです。26歳の時に入社し、50歳の時に三代目として経営の舵取りを担うこととなりました。しかし、承継したのが口ナ禍ということもあり、経営について大きな悩みを抱えました。

確かに技術力には自信があり、ものづくりそのものには誠実に向き合ってきましたが、その価値を

同友会との出会い

今後について伊藤氏は、「これまで主力としてきた蝶番を大切にしながら、事業をさらに展開していくたい。そのため、今はとにかく種をまく。そして芽吹かせるための努力を続ける段階」と語ります。「こういったものが欲しいが、どこに相談したらいいかわからぬい」そんな声に応えられる存在でありたいとのこと。最近では他業種とのコラボ商品を制作したり、イベントに参加したりと、外に向

相談される存在を目指して、 蝶番から広がる新たな挑戦へ

確かな技術力には自信があり、ものづくりそのものには誠実に向き合ってきましたが、その価値を

め直すきっかけとなり、入会を決めたといいます。また、社員から「この会社はどこに向かっているのか」と問われた際に明確に答えられなかつたことも、大きな転機となりました。入会の翌年には経営指針を創る会に参加し、会社の

方向性を言葉にして共有するようになります。現在では、「今までで一番仕事を行きたいと思う。楽しくなつた」という社員の声も聞かれ、会社が良い方向に向かっている実感を持っているそうです。



展示スペース

(有)伊藤金属総業

〒410-2407 伊豆市柏久保139

TEL : 0558-72-0604

URL : <https://choutsugai.jp>

創立 1969年

社員数 16名

入会年月 2023年12月

事業内容 金属筐体向け各種蝶番の製造及び販売、各種機構部品製造および販売、プレス加工品製作、組立、脱脂洗浄、梱包

取材・記事 江口 美乃氏
(株)アクリ・伊東支部
取材・足達 聖也氏
(株)スマートステイ・伊東支部

同友会の学びを生かし、男性も女性も力を發揮できる会社に

(株)植松設備
取締役 植松 昌氏 (富士支部)



植松氏

がうということもあり会活動への参加が難しかったそうです。自社の課題や日々の業務、コロナ禍もあり、会から離れていた時期もありました。そんな中、佐藤富士支部長（松本工業株）からの依頼でNEXT50フォーラムの実行委員を受けます。キャラバン隊を担当し、他支部例会に行く機会が増えたことで、例会での学びや同友会の良さを思い出したとれます。後に支部例会企画委員長を受けていたことで、例会での学びや同友会の運営の仕方のヒントにもなつたそうです。一時は退会を考えていた植松氏ですが、会活動に関わることによって学ぶ大切さと、学びを活かす重要性を再認識し、もう一度同友会活動に参加しようと思つたそうです。

事業承継に取り組むきっかけ

事業承継を考えていたのに、事業承継のタイミングがわからなくなり色々と見失いかけていた時期に、梶川久美子氏（サツマ電機株・沼津支部）から誘いを受け、女性部ダイヤモンドカレッジの役員と報告者を経験します。報告用の資料を作成する中で自社のことを見直しながら、改めて事業承継を本格的に進めようと考えるようになったそうです。また、取引金融機関である富士信用金庫より事業承継・引継ぎ支援センターを紹介してもらい計画を立て始めます。

私なりにできることを

再度同友会活動に参加したこと、経営指針の大切さを再認識し、本年度の第22期創る会を卒業します。

社員が活躍できる会社に

人材不足に悩んでいた植松氏。組織力がないから人が離れていく結果人材不足になるのだと気が付



社員工程ミーティング

き、現在は組織力を上げることに取り組んでいます。現場業務は男性社員が担っていますが、7名の社員のうち2名の女性社員が在籍しており、工事着工前の申請業務などは彼女たちが行っています。未経験から勉強して国家資格を取得し、現場事前調査もしています。彼女たちの仕事も現場の支えになつていていることを男性社員にも伝えている。皆で一つの仕事を現場でこなしていく方向に向くようにしてあります。皆で一つの仕事を現場でこなしていく方向に向くようにしてあります。彼女たちの仕事も現場の支えになつていることを男性社員にも伝えており、「創る会に参加し自身と社員と向き合つことで、私が事業承継していく本当の覚悟ができ、社員と共に目指す方向がはつきりとした」として一人で悩む私に本気でぶつかってくれる仲間に出会えたこと、創る会への参加に送り出してくれた社員に感謝したい」と言います。富士支部では今年度支部例会企画委員長を担当しています。植松氏は「会を離れていた私が突然委員長と驚きましたが、私が出来ることをしよう、私が出来るんだから誰でもできる!と思つてもらえれば」と引き受けたそうです。報告者のことを考えたレジュメ作成を行つなど、報告をしたいと思う、参加したいと感じる例会づくり、ワクワクする委員会づくりに取り組んでいます。

取材・記事 渡邊正仁氏

(有)丸之工務店・富士支部

(株)植松設備

〒417-0847 富士市比奈2823-3
TEL: 0545-34-0284
創業 1975年
設立 1993年
社員数 10名 (取締役3名)
入会年月 2016年11月
事業内容 住宅の給排水工事、県・市水道工事

(株)植松設備は1975年創業、50周年を迎える水道屋さんです。

同友会での学び

氏（田島博税理士事務所・富士支部）に、事業承継を考えるのであればひとと紹介を受け2016年11月に同友会へ入会します。初めは子育てしながら、仕事を覚えな

植松氏は、顧問税理士の田島博

見て・聞いて・話して・学んで実践！役員研修会

1月26日(月) クーポール会館
参加者…90名

同友会での学びを自社と自身の成長につなげる！

2025年度2度目となる役員研修会を1月26日(月)に静岡市のクーポール会館にて開催し、県内各支部から90名が参加しました。冒頭、松葉秀介代表理事より「会社や地域、同友会など様々な役割の中それぞれ持っている『軸』があると思います。ぜひ、一人ひとりが持っている『軸』を意識して学んでいきましょう」とあいさつがありました。

報告者は静岡同友会前会長の遠藤一秀氏(遠藤科学株・取締役会長／県相談役・静岡支部)が「同友会活動で立派に成長した我が社と私」をテーマに登壇しました。前半は同社(当時、遠藤製作所)が創業した1947年からの企業の変遷や社会情勢、同友会との関わりを紹介。創業年に生まれ

た遠藤氏は、1973年27歳で同社に入社。営業やシステム部門を経て、1991年に専務、1997年に社長に就任。2008年、リーマンショックの影響による赤字転落などの経営危機においても、社員の雇用を守り同友会の目指す企業づくりを真摯に実践してきました。「様々な場面で経営実践報告の機会がある度に経営指針を見直すことができ、深めることができた」と参加者に伝えました。様々な数値を自社独自の指標に落としこみ分析を続けてきた同氏。

遠藤氏は、「社員の、社員による、社員のための会社である」と定義し、「社員資本計算書」や社員への配分・社内留保分を最大化する「付加価値計算書」など、すべてが創業当初からの経営目的である「社員の幸福追求」に繋がっているとまとめました。

続いてグループ討論を実施。「会社を成長させる原動力は?」をテーマに同友会での学びをいかに自社で実践し、会社の成長につなげるかを意見交換しました。その後に開催された懇親会でも支部の垣根を超えて、活発な交流の時間となりました。

★2名の参加者から感想をいただきましたのでご紹介します！

塙本 和成氏

(有)塙本商店／県副代表理事・志太支部

遠藤氏の報告を聞くのは初めてで、参加者の多さからもこの役員研修会への期待の高さが伺えました。内容は前半部分で社会情勢に触れたながら自社の歴史と成長の軌跡、後半部分で社内での人を生かす経営の実践報告でした。特に感じたのが徹底的な数字の管理、社員資本計算書や付加価値計算書など社内独自の指標を作り、それを社内へ公開、そこから社員のやりがいや成長を生

み、これだけの会社の成長に繋がっているのだと思いました。グループ討論から人の大きさを学び、それを生かすも生かさないも経営者次第で、経営者の覚悟こそ自社、そして自分自身の成長に繋がっているのだと思ひ、学びの再確認ができました。

古川 徹氏

(株)フルカワ／榛南支部長

冒頭の松葉代表理事の挨拶で「軸」というキーワードがあつたように、遠藤会長の報告はその軸が幾度となく感じられる内容でした。売上規模が1千万円、社員7名の企業からスタートした会社が日本経済の急成長と共に10億円を超える売上げと50名余の会社に急成長し、そしてオイルショックの大不況の始まりに入社し、多くの危機を乗り越えながら今も探求心を忘れない遠藤会長。絶え間ない進化の背景(常に基準点を科学的に変える経営)には同友会の中で休眠会員から例会報告をきっかけに役引き受けることで自身が得た多くの学びと会社での実践があつたのだと感じました。

そして会社の理念と自身の生き様という二つの軸を重ね合わせる姿こそ中小企業家の目指すべき姿でした。私自身も同友会の人を生かす経営の実践を自信を持って語れる支部長を目指します。



遠藤 一秀氏



グループ討論の様子

鈴木県知事、塚本副知事へ 新年挨拶



鈴木康友静岡県知事（中央）

1月8日（木）静岡県庁にて、鈴木県知事をはじめ、塚本副知事、平木副知事へ新年の挨拶を行いました。同友会からは、井上・簗・松葉代表、宇佐美・伊藤・塚本・齊藤副代表と秋山事務局長が訪問しました。まずは、鈴木県知事に代表理事と伊藤副代表から昨年の全県経営フォーラムへ定時総会について紹介しました。その後、塚本副知事を訪問し、新年の挨拶をお伝えしました。引き続き、静岡県行政との連携や協力を深め、地域経済と社会を支える中小企業の成長・発展にむけた同友会運動を推進していきます。

静岡大学連携講座「中小企業と経営哲学」

第10講

12月10日（水）

中小企業の存在意義を考える

講師・佐藤 義幸氏

（松本工業株・富士支部）
1936年創業、富士市で総合建設業を営む松本工業株。佐藤氏は大手企業就職を経て結婚を機に娘婿として入社、20

19年に5代目として会社を継ぎました。稻盛和夫氏の「潜在意識に透徹する強い持続した願望をもつ」という哲学を大切にしており、会社員時代に厳しい環境でやり抜いた経験が経営者人生の支えになっていると話しました。「物事をやり抜くことで自分にとって必要なことを取捨選択ができるようになる。進路は自分で選び、とことん努力し、心からやりたいことを見つけて走り抜く人生を送ってほしい」と学生に伝えました。

第11講

12月17日（水）

意識改革—自分が変われば世界が変わる—

講師・三浦 大輔氏

（有）三浦水産・伊東支部
水産卸売業である（有）三浦水産は、かつて離職者が多かったことが課題でした。しかし同友会で経営指針を作成したことを



現在は地元伊東市で持続可能な漁業に取り組む企業との連携や、新工場を活用した産



第13講

1月7日（水）

楽しい経営とは？～好きなことを仕事に？～

講師・大池 盛一郎氏
（有）カーライフ静岡・志太支部

両親が創業したカーラ



イフ静岡を継ぐため、上場企業を辞めて実家に戻った大池氏。当初は多額の負債があり立て直しに必死でしたが、同友会での学びを通じ、経営者ならではの魅力に気づきます。苦手なことを手放し、仕入れた車を磨いて適正価格で売るという「好きなこと」を追求する経営へ転換したのです。現在は財務体質の改善も進み、固定比率100%達成を目前に控えています。「経営は責任も大きいが会社員にはない楽しさが満載なので、皆さんもぜひ経営という道に挑戦してみてほしい」と呼びかけました。

第15講

1月21日（水）

NO NUKE—ビキニの海は忘れない

（第5福島丸、水爆被ばく事件、あの頃ぼくたちは中学生だった）

講師・杉村 征郎氏



（杉村精工株・志太支部）
焼津市で工作機械を中心とした様々な産業機械の製造を行う杉村精工株

は1949年創業。会社近くで起きた第五福島丸被ばく事件。当時、杉村氏は中学生でしたが、平和な世の中、生きがいのある世の中にするために原水爆反対の署名活動に取り組みました。声を上げたことで現代の核兵器反対運動へ繋がっています。学生へ「先入観にとらわれず、多面的に、歴史的に本質的に見ること、事実を知ることが大事。知っていることは伝え、知らないことは学んでいきましょう」と伝えました。

第14講

1月14日（水）

向いていないことも、引き受ける

講師・深沢 麻衣子氏
（有）深沢製帆店・静岡支部

像があり、向いていないと感じた営業や経営には関わらないつもりだつた。しかし、同友会で学び、自分らしく社員を支える関わり方で会社を続けていく道を見出しました。気づけば会社の未来や経営に向き合っていた深沢氏は、社内環境や仕事への関わり方を自分なりに見直していると言います。「向いていないと思つてたことも、視点を変えれば関われる形が見えてくる」と学生へメッセージを送りました。



と感じた営業や経営には関わらないつもりだつた。しかし、同友会で学び、自分らしく社員を支える関わり方で会社を続けていく道を見出しました。気づけば会社の未来や経営に向き合っていた深沢氏は、社内環境や仕事への関わり方を自分なりに見直していると言います。「向いていないと思つてたことも、視点を変えれば関われる形が見えてくる」と学生へメッセージを送りました。

2月・3月

DOYOU CALENDAR

2月16日(月)～3月15日(日)

2月 16日(月)	県にじいろ共生委員会 (18:30 同友会事務局&ZOOM)
18日(水)	沼津例会 (19:00 プラサヴェルデ)
19日(木)	榛南例会 (18:30 きてご榛原) 中遠例会 (19:00 ワークピア磐田) 富士例会 (19:00 富士市交流プラザ)
20日(金)	県女性部ダイヤモンドカレッジ (10:00 Glamping&Port結) 静岡労働局との意見交換会 (15:00 同友会事務局) 県組織増強委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM) グループ長研修 (19:00 藤枝BiViキャン)
24日(火)	災害対応学習会 (14:00 同友会事務局&ZOOM) 県例会企画委員会 (18:30 ZOOM) 県広報情報化委員会 (19:00 ZOOM) 三島例会 (19:00 三島商工会議所)
25日(水)	志太例会 (18:30 藤枝BiViキャン)
26日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)

27日(金)	中同協定時総会in静岡 実行委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)
3月 3日(火)	県青年部連絡会 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
5日(木) ～6日(金)	第56回中小企業問題全国研究集会in岩手 (13:00 ホテルメトロポリタン盛岡NEWWINGほか)
9日(月)	中同協定時総会実行委員会主催例会 (15:00 クーポール会館)
10日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート)
11日(水)	御殿場例会 (19:00 エピ・スクエア)
12日(木)	県正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 伊東例会 (19:00 調整中) 浜松例会 (調整中)
13日(金)	富士宮例会 (19:00 富士宮市総合福祉会館)

《あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください》



女性部×青年部合同例会

「コラボで弾む経営トーク」 進化への取り組みを語りあう



パネルディスカッションのようす

12月2日(火) 会場：ペガサート7F
参加者：32名

女性部会・青年部会がコラボし「普段はなかなか聞けない本音の経営談」をテーマに合同例会を開催しました。当日はLiveQアプリを活用し、参加者よりリアルタイムで質問を募集、登壇者が回答する形で進行しました。

冒頭、深沢麻衣子女性部会長（有深沢製帆店・静岡支部）よりあいさつ。その後、切削工具の製造販売を行う松岡慶子氏（株松岡カッター製作所・静岡支部）と、広告代理店・マーケティング支援を行う辻田敬介氏（株Shinker・静岡支部）

がパネリスト、田中仁志氏（株）ファイナンシャルネット・沼津支部）がコーディネーターとして登壇しました。

パネルディスカッションのテーマは事業紹介にはじまり、組織づくりや求人への取り組み、社員の定着率、社員とのコミュニケーションの取り方、給料や福利厚生などに広がりました。松岡氏からは、社員の挑戦意欲を高める取り組みや、社員とお客様、そしてその家族までを大切にする思いなどを伝えました。辻田氏は得意なことが違う社員それぞれに活躍してもらうために行った縦割りの組織づくり、次のステップとして複数分野得意とする人材育成への取り組みなどを伝えました。

松岡氏と辻田氏の経営実践を踏まえ「シンカ（進化）」をテーマにグループ討論。シンカには深めていく深化、指針成文化の針化があるといったキーワードをはじめ、経営のフェーズにあわせた進化への取り組みについて意見を交わしました。最後に関那積青年部会長（株中部特機設備・静岡支部）よりあいさつがあり閉会しました。